

## いわぎん I C キャッシュカード規定（個人のお客さま）

当行は、お客さまから当行所定のこの取引に係る申込書の提出を受け、当行がこれを承諾したときに、この取引に係る契約が成立するものとします。

### 1（I C キャッシュカードの利用）

普通預金（総合口座取引の普通預金を含みます。以下同じです。）および貯蓄預金について発行したいわぎん I C キャッシュカード（指静脈認証機能付 I C キャッシュカードを含め、以下「I C カード」といいます。）は、それぞれ当該預金口座について、つぎの場合に利用することができます。

なお、指静脈認証機能付 I C キャッシュカードは、以下「生体 I C カード」といいます。

- (1) 当行の現金自動預金機（現金自動預入払出兼用機を含みます。以下「預金機」といいます。）を使用して普通預金または貯蓄預金（以下これらを「預金」といいます。）に預入れをする場合。
- (2) 当行および当行がオンライン現金自動支払機の共同利用による現金支払業務を提携した金融機関等（以下「提携先」といいます。）の現金自動支払機（現金自動預入払出兼用機を含みます。以下「支払機」といいます。）を使用して預金の払戻しをする場合。
- (3) 当行の自動振込機（振込を行うことができる現金自動預入払出兼用機を含みます。以下「振込機」といいます。）を使用して振込資金を預金口座からの振替えにより払戻し、振込の依頼をする場合。
- (4) その他当行所定の取引をする場合。

### 2（生体 I C カードの生体認証登録）

生体 I C カードは、カードをご利用になる前に、カードに搭載されている I C チップに指静脈の情報を登録する必要がありますので、お手元にカードが届きましたならば、生体 I C カードとお届出印、預金通帳、本人確認書類をご持参のうえ銀行窓口にて、指静脈の認証登録手続きをお願いします。

### 3（預金機による預金の預入れ）

- (1) 預金機を使用して預金に預入れをする場合には、預金機の画面表示等の操作手順に従って、預金機に I C カードまたは通帳を挿入し、現金を投入して操作してください。
- (2) 預金機による預入れは、預金機の機種により当行所定の種類の紙幣に限ります。また、1回あたりの預入れは、当行所定の枚数による金額の範囲内とします。
- (3) I C カードによる預入があった場合には、ご利用明細票に入金後の残高を印字します。なお、預入額は前1項の操作において、預金機の画面表示によりご確認ください。

### 4（支払機による預金の払戻し）

- (1) 支払機を使用して預金の払戻しをする場合には、支払機の画面表示等の操作手順に従って、支払機に I C カードを挿入し、届出の暗証および金額を正確に入力してください。この場合、通帳および払戻請求書の提出は必要ありません。

なお、生体 I C カードにより払戻しをする場合には、支払機に生体 I C カードを挿入後、指認証判別機にあらかじめ登録した指の静脈をかざし、指静脈情報が認識されたことを確認のうえ、届出の暗証および金額を正確に入力してください。

- (2) 支払機による払戻しは、支払機の機種により当行または提携先所定の金額単位とし、1回あたりの払戻しは当行または提携先所定の金額の範囲内とします。なお、1日あたりの払戻しは当行所定の金額の範囲内とします。
- (3) 1日あたりの払戻限度額は、お客さまの任意で変更することができますので、預金取引店もしくは最寄りの本支店窓口へ I C カード、お届出印、本人確認資料を持参しお申出ください。
- (4) 支払機を使用して預金の払戻しをする場合に、払戻請求金額と第6条第1項に規定する自動機利用手数料金額が払戻すことのできる金額をこえるときは、その払戻しはできません。

### 5（振込機による振込）

振込機を使用して振込資金を預金口座からの振替えにより払戻し、振込の依頼をする場合には、振込機の画面表示等の操作手順に従って、振込機に I C カードを挿入し、届出の暗証その他の所定の事項を正確に入力してください。この場合における預金の払戻しについては、通帳および払戻請求書の提出は必要ありません。

なお、生体 I C カードにより振込の依頼をする場合には、振込機に生体 I C カードを挿入後、指認証判別機にあらかじめ登録した指の静脈をかざし、指静脈情報が認識されたことを確認のうえ、届出の暗証その他の所定の事項を正確に入力してください。

### 6（自動機利用手数料等）

- (1) 支払機または振込機を使用して預金の払戻しをする場合には、当行および提携先所定の支払機・振込機の利用に関する手数料（以下「自動機利用手数料」といいます。）をいただきます。
- (2) 自動機利用手数料は、預金の払戻し時に、通帳および払戻請求書なしで、その払戻しをした預金口座から自動的に引落します。なお、提携先の自動機利用手数料は当行から提携先に支払います。
- (3) 振込手数料は、振込資金の預金口座からの払戻し時に、通帳および払戻請求書なしで、その払戻しをした預金口座から自動的に引落します。

#### 7（代理人による預金の預入れ・払戻しおよび振込）

- (1) 代理人（本人と生計をともにする親族に限ります。）による預金の預入れ・払戻しおよび振込の依頼をする場合には、本人から代理人の暗証届を提出してください。この場合、当行は代理人のためのＩＣカードを発行します。
- (2) 代理人ＩＣカードにより振込の依頼をする場合には、振込依頼人名は本人名義となります。
- (3) 代理人のＩＣカードの利用についても、この規定を適用します。

#### 8（預金機・支払機・振込機故障時等の取扱い）

- (1) 停電、故障等により預金機による取扱いができない場合には、窓口営業時間内に限り、当行本支店の窓口でＩＣカードにより預金に預入れをすることができます。
- (2) 停電、故障等により当行の支払機による取扱いができない場合には、窓口営業時間内に限り、当行が支払機故障時等の取扱いとして定めた金額を限度として当行本支店の窓口でＩＣカードにより預金の払戻しをすることができます。なお、提携先の窓口では、この取扱いはしません。
- (3) 前項による払戻しをする場合には、当行所定の払戻請求書に氏名、金額を記入のうえ、ＩＣカードとともに提出してください。
- (4) 停電、故障等により振込機による取扱いができない場合には、窓口営業時間内に限り、前２項によるほか振込依頼書を提出することにより振込を依頼することができます。

#### 9（ＩＣカードによる預入れ・払戻し金額等の通帳記入）

ＩＣカードにより預入れた金額、払戻した金額、自動機利用手数料金額または振込手数料金額の通帳記入は、通帳が預金機、振込機、当行の支払機もしくは当行の通帳記帳機で使用された場合または当行本支店の窓口で提出された場合に行います。また窓口でＩＣカードにより取扱った場合にも同様とします。なお、払戻した金額ならびに自動機利用手数料金額と振込手数料金額の合計額はそれぞれの金額をもって通帳に記入します。

#### 10（ＩＣカード・暗証の管理等）

- (1) 当行は、支払機または振込機の操作の際に使用されたＩＣカードが、当行が本人に交付したＩＣカードであること、および入力された暗証と届出の暗証とが一致することを当行所定の方法により確認のうえ預金の払戻しを行います。
- (2) ＩＣカードは他人に使用されないよう保管してください。  
また、暗証番号は他人に知られないようにしてください。
- (3) 暗証番号は自動機画面のタッチパネルで変更することができますので、随時、暗証番号を変更しＩＣカードを利用してください。
- (4) つぎの番号は暗証番号として登録できませんのでご注意ください。
  - ① 生年月日【例：昭和 53 年 5 月 2 日（1978 年 5 月 2 日生まれの方の場合）】  
(5305、5302、0502、5352、1978)
  - ② 電話番号の下 4 桁と同一番号
  - ③ 4 桁の数字が同一数字（例：1111、5555 等）
  - ④ 4 桁の数字が連続番号（例：0123、9876、8901 等）
- (5) ＩＣカードが、偽造、盗難、紛失等により他人に使用されるおそれが生じた場合または他人に使用されたことを認知した場合には、すみやかに本人から当行に通知してください。この通知を受けたときは、直ちにＩＣカードによる預金の払戻し停止の措置を講じます。

#### 11（偽造ＩＣカード等による払戻し等）

偽造または変造ＩＣカードによる払戻しについては、本人の故意による場合または当該払戻しについて当行が善意かつ無過失であって本人に重大な過失があることを当行が証明した場合を除き、その効力を生じないものとします。  
この場合、本人は、当行所定の書類を提出し、ＩＣカードおよび暗証の管理状況、被害状況、警察への通知状況等について当行の調査に協力するものとします。

#### 12（盗難ＩＣカードによる払戻し等）

- (1) ＩＣカードの盗難により、他人に当該ＩＣカードを不正利用され生じた払戻しについては、次の各号のすべてに該

当する場合、本人は当行に対して当該払戻しにかかる損害（手数料や利息を含みます。）の額に相当する金額の補てんを請求することができます。

- ① ICカードの盗難に気づいてからすみやかに、当行への通知が行われていること
- ② 当行の調査に対し、本人より十分な説明が行われていること
- ③ 当行に対し、警察署に被害届を提出していることその他の盗難にあったことが推測される事実を確認できるものを示していること

(2) 前項の請求がなされた場合、当該払戻しが本人の故意による場合を除き、当行は、当行へ通知が行われた日の30日（ただし、当行に通知することができないやむを得ない事情があることを本人が証明した場合は、30日にその事情が継続している期間を加えた日数とします。）前の日以降になされた払戻しにかかる損害（手数料や利息を含みます。）の額に相当する金額（以下「補てん対象額」といいます。）を補てんするものとします。

ただし、当該払戻しが行われたことについて、当行が善意無過失であり、かつ、本人に過失があることを当行が証明した場合には、当行は補てん対象額の4分の3に相当する金額を補てんするものとします。

(3) 前2項の規定は、第1項にかかる当行への通知が、盗難が行われた日（当該盗難が行われた日が明らかでないときは、当該盗難にかかる盗難ICカード等を用いて行われた不正な預金払戻しが最初に行われた日。）から、2年を経過する日後に行われた場合には、適用されないものとします。

(4) 第2項の規定にかかわらず、次のいずれかに該当することを当行が証明した場合には、当行は補てん責任を負いません。

- ① 当該払戻しが行われたことについて当行が善意かつ無過失であり、かつ、次のいずれかに該当する場合
  - a 本人に重大な過失があることを当行が証明した場合
  - b 本人の配偶者、二親等内の親族、同居の親族、その他の同居人、または家事使用人（家事全般を行っている家政婦など。）によって行われた場合
  - c 本人が、被害状況についての当行に対する説明において、重要な事項について偽りの説明を行った場合
- ② 戦争、暴動等による著しい社会秩序の混乱に乗じまたはこれに付随してICカードが盗難にあった場合

#### 13（ICカードの紛失、届出事項の変更等）

ICカードを紛失した場合または氏名、代理人、暗証その他の届出事項に変更があった場合には、直ちに本人から当行所定の方法により当行に届け出てください。

#### 14（ICカードの再発行等）

- (1) ICカードの盗難、紛失等の場合のICカードの再発行は、当行所定の手続をした後に行います。この場合、相当の期間をおき、また、保証人を求めることがあります。
- (2) ICカードを再発行する場合には、当行所定の再発行手数料をいただきます。

#### 15（預金機・支払機・振込機への誤入力等）

預金機・支払機・振込機の使用に際し、金額等の誤入力により発生した損害については、当行は責任を負いません。なお、提携先の支払機を使用した場合の提携先の責任についても同様とします。

#### 16（生体ICカードの発行手数料）

生体ICカードの発行時には、当行所定のカード発行手数料をお支払いいただきます。

#### 17（解約、ICカードの利用停止等）

- (1) ICカードの利用を取りやめる場合には、そのICカードを当行に返却してください。
- (2) ICカードの改ざん、不正使用など当行がICカードの利用を不相当と認めた場合には、その利用をおことわりすることがあります。この場合、当行からの請求がありしだい直ちにICカードを当行に返却してください。
- (3) つぎの場合には、ICカードの利用を停止することがあります。この場合、当行の窓口において当行所定の本人確認書類の提示を受け、当行が本人であることを確認できたときに停止を解除します。
  - ① 第18条に定める規定に違反した場合
  - ② 預金口座に関し、最終の預入または払戻しから当行が別途表示する一定の期間が経過した場合
  - ③ ICカードが偽造、盗難、紛失等により不正に使用されるおそれがあると当行が判断した場合

#### 18（譲渡、質入れ等の禁止）

ICカードは譲渡、質入れまたは貸与することはできません。

#### 19（規定の適用）

この規定に定めのない事項については、当行普通預金規定、総合口座取引規定、貯蓄預金規定および振込規定により取扱います。

## 20（規定の変更）

- (1) この規定の各条項は、金融情勢その他の状況の変化その他相当の事由があると認められる場合には、民法第 548 条の 4 の規定にもとづき変更するものとします。
- (2) 前項によるこの規定の変更は、変更を行う旨および変更後の規定の内容ならびにその効力発生時期を、店頭表示、インターネットまたはその他相当の方法で公表することにより周知します。
- (3) 前 2 項による変更は、公表の際に定める 1 か月以上の相当な期間を経過した日から適用するものとします。

以 上

### 重大な過失または過失となりうる場合

キャッシュカード規定に定める「重大な過失または過失となりうる場合」については次のとおりとなります。

#### 1（お客さまの重大な過失となりうる場合）

お客さまの重大な過失となりうる場合とは、「故意」と同視しうる程度に注意義務に著しく違反する場合であり、その事例は、典型的には以下のとおりとなります。

- (1) お客さまが他人に暗証を知らせた場合
- (2) お客さまが暗証を IC カード上に書き記していた場合
- (3) お客さまが他人に IC カードを渡した場合
- (4) その他お客さまに (1) から (3) までの場合と同程度の著しい注意義務違反があると認められる場合

(注) 上記 (1) および (3) については、病気の方が介護ヘルパー（介護ヘルパーは業務として IC カードを預かることはできないため、あくまで介護ヘルパーが個人的な立場で行った場合）等に対して暗証を知らせた上で IC カードを渡した場合など、やむを得ない事情がある場合はこの限りではありません。

#### 2（お客さまの過失となりうる場合）

お客さまの過失となりうる場合の事例は、以下のとおりとなります。

##### (1) 次の①または②に該当する場合

- ① 当行から生年月日等の類推されやすい暗証番号から別の番号に変更するよう個別的、具体的、複数回にわたる働きかけが行われたにもかかわらず、生年月日、自宅の住所・地番・電話番号、勤務先の電話番号、自動車などのナンバーを暗証にしていた場合であり、かつ、IC カードをそれらの暗証を推測させる書類等（免許証、健康保険証など）とともに携行・保管していた場合
- ② 暗証を容易に第三者が認知できるような形でメモなどに書き記し、かつ、IC カードとともに携行・保管していた場合

##### (2) (1) のほか、次の①のいずれかに該当し、かつ、②のいずれかに該当する場合で、これらの事由が相まって被害が発生したと認められる場合

###### ① 暗証の管理

- a 当行から生年月日等の類推されやすい暗証番号から別の番号に変更するよう個別的、具体的、複数回にわたる働きかけが行われたにもかかわらず、生年月日、自宅の住所・地番・電話番号、勤務先の電話番号、自動車などのナンバーを暗証にしていた場合
- b 暗証をロッカー、貴重品ボックス、携帯電話など当行の取引以外で使用する暗証として使用していた場合

###### ② IC カードの管理

- a IC カードを入れた財布などを自動車内などの他人の目につきやすい場所に放置するなど、第三者に容易に奪われる状態においた場合
- b 酔っ払い等により通常の注意義務を果たせなくなるなど IC カードを容易に他人に奪われる状況においた場合

##### (3) その他 (1)、(2) の場合と同程度の注意義務違反があると認められる場合

以 上

(2020. 4. 1)